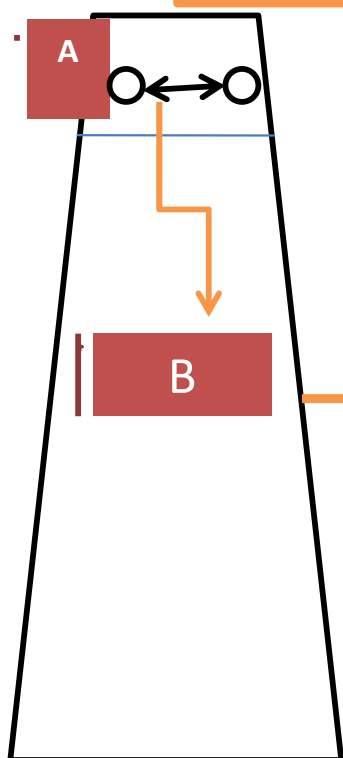


《日本の精神主義構圖：パターン①》

* $A \rightarrow B \rightarrow C'' \Leftrightarrow C2$: 護符
(西歐近代國家/洋才=上位概念)

◎C2: 後楯・護符(西歐近代國家/洋才=上位概念)

OC''[大義名分: プラス10の國家意識(c'' 國家主義/富國強兵)]



〔『生き甲斐といふ事』P310〕

左圖説明:『日本の精神主義構圖』:パターン①

《利己心(A)を大義名分(C'')でごまかす偽善(P316下)》

〔地方下級武士の、「上級武士=出世慾=利己心(A)」に對する劣等感〕

*「現實(A/立身出世)的不満[とは:地方下級武士の「上級武士=出世慾=利己心(A)」に對する劣等感(後めたさ/プラス2の利己心A/立身出世欲)]⇒逃げ處としての個人的自我概念(B:自己犠牲/滅私奉公)へ滑り込み⇒C''[大義名分:プラス10の國家意識(富國強兵)]⇔護符(C2)「西歐近代國家/後楯の思想(洋才・帝國主義・資本主義等)⇒C3:偽善/自己欺瞞/自己満足/自己正當化(似非生き甲斐/似非充實感/似非實在感)」。

【拙発表文《恒存の「和魂洋才」批判について》から抜粋】「」内が恒存文。〔〕()内は吉野注。

*「福沢諭吉以下の明治洋學者達を、私は高く評價しえない。彼等の多くは、『和魂B』も何もあつたものではない。所詮は地方下級武士の劣等感(上級武士=出世慾=利己心A、に對する劣等感)に基づいた立身出世主義(プラス2の利己心A)が國家有用の實學(護符:C2)といふ考へと結びついたのでに過ぎまい」(全五『論争のすすめ』)と。

「簡略するとかう言ふことか。否定しきれぬ立身出世慾(プラス2の利己心A)が鬱勃として有るにもかかはらず、もう一つ心には利己心(A)を否定する自己(マイナス2の利己心A:日本の民族性/神道/本能的穢れ忌避=『祓ひ清めて』)が存在する。その二律背反(±2利己心A)に彼等は堪へきれず、かつ後ろめたさ(劣等感)からも逃れる爲に、「利己心(A)⇒和魂(B)滑り込みの自己欺瞞⇒C''國家主義」へと、その立身出世主義(プラス2の利己心A)を變節させる必要が生じた。そして其處に救ひを求めたのだと言ふ事になるのであらう。

繰り返しもなるが、上記の劣等感(上級武士=出世慾=利己心A、に對する劣等感)について恒存はかうも言ふ。「その利己心(プラス2の利己心A)から逃れようといふ衝動が、幕末維新の混迷に堪へ切れず中央集權的國家(C'')意識(B/個人的自我)に救ひを求めたとも言へる」。そしてさうした衝動の淵源は「本來的には日本の民族性[とは:神道/本能的穢れ忌避=惡しきを『祓ひ清めて』]の内に、第二の習性として封建道德の名残りとして人々は利己心(A)に對して頗る過敏であつた」(全六P310『生き甲斐といふ事』)處に上げられると。即ち利己心(A)への後ろめたさから「國家C''」意識(B/個人的自我)」、自己犠牲(B)的概念である自我(B:和魂/個人的自我)に逃避したと言ふ事なのである(上記粹文參照)。

スライド 1

政吉1

政雄 吉野, 2024/10/30